

令和3年度 学校評価 目標設定

神奈川県立麻生養護学校

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	・自立と社会参加を目指し、キャリア教育の視点で小学部から高等部まで連続性・一貫性のある教育課程を編成し実践・評価・改善を図る ・ICT機器等の有効活用を推進し、専門性の高い教育活動を実践する。	①「育てたい力」の学部間での系統性・連続性を明確にし、授業改善をする。 ②ICT機器を利活用した授業を推進し、PDCAで内容の充実を図る。	①-1「育てたい力」の学部・教科間での系統性・連続性について学校全体で研究を進め、経過・成果を外部へ発信する。 ①-2新学習指導要領に基づき「麻生の教育課程」の実践と日課表を改定する。 ②ニーズに応じてICT機器を利活用した専門性の高い授業実践を共有し、外部へ発信する。	①-1研究を進め、実践成果を学校全体で共有し外部へ発信できたか。 ①-2「麻生の教育課程」の実践及び日課表の改定ができたか。 ②全ての職員がICT機器を利活用した授業改善を実践し、保護者や外部から理解・評価を得られたか。
2	児童・ 生徒指 導・支援	・児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた個別の指導と集団の指導両方を関連付けた授業実践、児童・生徒支援・教育相談を組織的に行う	①個別教育計画で検討した支援の手立てを、専門職を含め組織的に検討し実践する。	①個別教育計画で組織的に検討した支援の手立てを、個別の指導、集団の指導で有効に実践し、その成果を保護者へ発信したり説明したりする。	①個別教育計画で検討した支援の手立てを、個別・集団の指導で有効に活用し、実践内容を保護者へ説明し理解を得ることができたか。
3	進路指 導・支援	・一人ひとりの発達の段階に応じた進路指導・支援を行い、将来の自立と社会参加を実現するために必要な力を育成する。	①小学部から高等部を通して作業学習から「ワークアート」への系統表を活用する。 ②保護者・教員へ進路に関する知識や情報を積極的に発信する。	①系統表を活用し、小学部から高等部への連続性・系統性を持たせたキャリア教育を実践する。 ②教員や保護者(中小学部保護者も対象)への情報提供を積極的に行う。	①系統性の活用、中間振り返り及び見直しが進んだか。 ②保護者へ情報を発信できたか。職員の知識向上が進んだか。保護者アンケート、職員アンケート共にB以上80%。
4	地域等と の協働	・共生社会の実現に向け、学校と地域住民との協働による活動を展開する。	①地域対象の研修や地域住民と協働した活動を行う。 ②地域の学校へコンサルテーションを行う	①地域向け研修等開催や防災活動に関する情報発信を行う。 ②地域の小中学校、高等学校の「支援体制の充実」を図る働きかけをする。	①研修等開催や防災活動に関する情報発信ができたか。 ②電話相談等の活用も含め、コンサルテーションができたか。
5	学校管理 学校運営	・教職員の人格的資質・専門性の向上を図る。 ・生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①全職員が事故不祥事防止や授業改善に取り組むシステムを構築する。 ②長期休業期間中に学校閉庁日を設定する。	①学校運営協議会で取組内容について説明し、協議会の提言を実践する。 ②年間計画で閉庁日を5日間設定・実行する。	①提案を実現し、学校運営の改善及び事故、不祥事の防止ができたか。 ②閉庁日を5日間設定したか。